

「破綻国家とグローバリゼーション 国際政治経済学による一考察」

妹尾 裕彦 (京都大・院)

(要旨)

第二次大戦後に独立を遂げたアフリカ諸国のなかには、近代的な国民国家形成について成功しないまま、90 年代以降、「破綻国家」へ転落していく国が見受けられるようになった。こうした「開発の失敗」としての「破綻国家」という現象を、国際政治経済学の立場から考察した上で、これをうけて、この間に進行したグローバリゼーションの構造の定式化を試みる。

(目次)

I: はじめに

II: 破綻国家とは何か

III: 破綻のメカニズム 資金・武器・兵力

IV: 破綻国家化におけるグローバリゼーションの役割

(1) 武器・兵力の調達 (2) 資金の調達 (3) グローバリゼーションとは何か?

V: おわりに

I: はじめに

- ・ ポスト冷戦 = グローバリゼーション時代に現れた 2 つの世界展望論
 - フランシス・フクヤマ 『歴史の終焉と最後の人間』 (Fukuyama [1992])
 - サミュエル・ハンチントン 「文明の衝突？」 (Huntington [1993])
 - ・ 両者の議論から見えてこなかった事態: 「破綻国家」
 - ・ 報告の目的:
 - 「破綻国家」を、(地域研究ではなく) 国際政治経済学の立場から考察する
 - 「破綻国家」を一つの事例として、グローバリゼーションの構造の定式化を試みる
- 本報告は、特定国をフィールドとした実証的な破綻国家論ではなく、破綻国家を素材とした「グローバリゼーション研究」(Globalization Studies) の一部を成すもの。

II: 破綻国家とは何か

- ・ ロバート・ロットバーグ (Robert Rotberg): 国家が国民に対して、セキュリティに関する公共財を提供できているかどうかという観点から、世界の国民国家を 5 つに類型化 (Rotberg [2004])。すなわち、「強い国家」(strong states)、「弱い国家」(weak states)、「失敗しつつある国家」(failing states)、「失敗国家」(failed states)、「崩壊国家」(collapsed states)。
- 本報告での「破綻国家」とは、「失敗国家」と「崩壊国家」を指す。

- ・ 判定基準自体は、必ずしも十分に明瞭ではない。
 - 弱い国家 (weak states): 民族・宗教・言語といったコミュニティ間の緊張が高まる、都市の犯罪率が高まる、公共財の提供能力が失われたか失われつつある、インフラが劣化する、など。戦闘状態には突入していない。
 - 失敗国家 (failed states): 国内の一部地域には政府の支配が及ばない、通常の警察力が機能を停止、犯罪的なギャングが都市の街路を闊歩する、議会や司法制度が正常に機能しない、汚職と腐敗の蔓延、政府軍と非政府軍 (複数の場合もあり) との間で交戦が発生など (社会経済的には、インフラや医療・教育システムの崩壊、識字率の急落、幼児死亡率の上昇、一人あたり GDP の減少などが顕著となる)。
 - 両者の中間に位置するのが、「失敗しつつある国家」(failing states)
- ・ 具体的な国は？ 図表 1
- ・ アフリカの「脆弱性」が顕著。「破綻国家」計 8 カ国のうち 7 カ国がアフリカ (全てサブサハラ・アフリカ)。

III : 破綻のメカニズム 資金・武器・兵力

- ・ 国家破綻の特徴: 「ウォーロード」(warlord)の台頭、「国家の犯罪化」(Bayart et.al [1999])
 - 「ウォーロード」(warlord): 「武装集団の頭領のことであり、自然資源(ダイヤモンド、石油、ボーキサイト、鉄鉱石、木材など)や、援助物資、港湾や空港の利権、および武器弾薬の購入ルートを有し、獲得した富を分配する権力を握るパトロン(親分)、ビッグマン」(栗本[2000:25])。
 - 「国家の犯罪化」: 公的機関の地位にある人々が、個人的な利益や報酬のために、公的資源を流用したり、有害廃棄物を投棄したりといった各種の不法活動を行なうこと。(例) 麻薬や野生動物種の密貿易、海賊および山賊行為、外国援助の流用、国家強制力の不法利用など。
- ・ 破綻国家 政府軍と非政府軍との間で交戦が発生。
- ・ 政府軍と非政府軍の違いは何か？
 - 政府軍: 国家が徴収した税の一部で運営される
 - 非政府軍: 私的な組織。組織は徴税機能を(原則として)保持していない
非政府軍はどのように戦闘資金を調達しているのか? 武器は? 兵力は?
- ・ 非政府の紛争当事者が、戦闘資金を調達する 3 つの方法 (Collier et al.[2003]): 既に裕福な人がグループを創設する、寄付金を募る、商売を営む
- ・ 武器や兵力をどこから入手しているのか？
 - 武器: 旧ソ連・東欧圏諸国から流入 (密輸) 図表 2
 - (cf.) 輸送システム: 旧 KGB 将校の活躍
 - 兵力: 各国の PMF (Private Military Firms: 民間軍事会社) が流入

IV：国家破綻におけるグローバリゼーションの役割

- ・ 破綻国家を「内戦の継続」と捉え、内戦に必要な武器（モノ）・兵力（ヒト）・資金（カネ）のグローバルなフローに注目する。

(1) 武器・兵力の調達

- ・ 旧ソ連・東欧圏における武器と兵力

市場経済移行に伴い、ワルシャワ条約機構加盟国向け武器市場が縮小
アフリカ諸国向けの武器市場のウェイトが相対的に浮上。

暴力手段の国家による独占的管理の変貌

- ・ 国外からの脅威に対する安全保障：国軍 人員縮小、給与遅配・不払
 - a：処遇：私的暴力行使セクター（PMF やマフィアなど）へ流入
 - b：武器売却：私的利益の確保
 - c：武器売却の取締：法制度の不備
 - d：国境警備：手薄化
- ・ 国内での脅威に対する安全保障：警察と秘密警察。このうち秘密警察は廃止。秘密警察官のスキルやノウハウ（殺人等）を活かせる職業は？ 私的暴力行使セクターへ

- ・ 西側圏における兵力

➤ 軍備縮小をうけて軍人の大量復員 PMF を設立、または PMF に入社（Singer[2003]）

図表 3、図表 4、図表 5、図表 6

- ・ 冷戦終結により「グローバリゼーション」として自由化・脱軍事化・市場経済化が進む過程で、国家によって独占的に管理されてきた暴力手段が市場化された
- ・ 旧ソ連・東欧圏、西側圏における暴力手段の国家による独占的管理をめぐる変容
一括して「軍事領域の市場化」と定式化しうる
- ・ 「市場化された暴力手段」の輸出先は？ 世界システム周辺部、とりわけ「破綻国家」

(2) 資金の調達

- ・ ウォーロードの台頭、国家の犯罪化：いずれも生存ないしは戦闘継続のための資金調達を目的とした違法なビジネスを、国境を越えて展開。一種の「グローバル・ビジネス」。
暴力手段の保持・行使が、違法なビジネスを可能にしている（天然資源の採掘）
- ・ ウォーロードの台頭や、国家の犯罪化の本質：暴力手段を不当に保持・行使することで、私的な経済活動を営む上で守るべきルールを破ったり、他の市場参加者を不当に排除することによって、成立している。
一括して「市場領域の軍事化」と定式化しうる

(3) グローバリゼーションとは何か？

- ・ 「市場領域の軍事化」が進行した破綻国家はやがて、しばしばテロ組織の温床と化す。こうした現実をうけて、とりわけアメリカにおいて飽くなき軍事化が要請されている。
世界中でもっとも「市場」領域を発達させてきた国で、もっとも著しく「軍事化」が進行するというアイロニー。世界システム周辺部における「市場領域の軍事化」の圧力が、中心部に波及。

- ・ 破綻国家の検討から導出されるグローバリゼーションの構造： 図表 7
 フェーズ1：世界システム中心部に端を発する自由化・脱軍事化・市場経済化（「表のグローバル化」）の圧力のなかで、「軍事領域の市場化」が進行
 フェーズ2：市場化された暴力手段が、世界システム周辺部へ向かう
 フェーズ3：周辺部において、市場化された暴力手段を活用した「市場領域の軍事化」が進行（「裏のグローバル化」）
 （フェーズ4：周辺部における「市場領域の軍事化」が、中心部に波及）

グローバリゼーション = 「軍事領域の市場化」 + 「市場領域の軍事化」
 「市場主義」と「軍事主義」の結合。

- ・ グローバリゼーションを、「市場主義」 + 「軍事主義」の結合と捉えることで、「グローバリゼーションは世界中に自由と民主主義と平和をもたらす」という予想が一向に実現せず、逆に世界各地に過酷な抑圧と戦争と貧困が残り続けている原因が理解される。
- ・ 周辺部における暴力や戦争の蔓延という「裏のグローバル化」は、中心部に端を発する性急な自由化、脱軍事化、市場経済化という「表のグローバル化」の必然的な帰結である。
 (cf.) 冷戦終結による「平和の配当」 = 破綻国家の頻出という代償を伴っている
- ・ グローバリゼーションの推進に熱心な国では、「市場主義」と「軍事主義」が顕著に観察される。市場主義の旗振り役であるアメリカが、軍事主義の最右翼であることは、偶然の一致ではなく論理的に当然のこと。

V：おわりに

通俗的見解：

- ・ グローバリゼーション = 自由化と脱軍事化と市場経済化を世界規模で推し進めるものであり、その結果として、戦争のない平和で豊かな社会を作り上げていく。
- ・ 破綻国家 = グローバリゼーションに取り残された国々。自由化、脱軍事化、そして市場経済が未だ十分に地球上に行き渡っていない。
 この種の議論は、一種の「神話」であり、完全に誤り。

本報告の分析による見解：

- ・ グローバリゼーション = 一方では自由化や脱軍事化や市場経済化を推し進める。しかし「軍事領域の市場化」を伴っているため、世界システム周辺部で「市場領域の軍事化」がもたらされる。市場主義と軍事主義の結合。よって一方で自由と平和と豊かさが、他方では抑圧と戦争と貧困が併存する。
- ・ 破綻国家 = グローバリゼーションの歪みと矛盾が、しわ寄せされた結果。
- ・ 「裏のグローバル化」と、「表のグローバル化」は、論理的に不可分な構造となっている。

文献

- Bayart, Jean-François, Stephen Ellis and Béatrice Hibou (translated from the French by Stephen Ellis) (1999) "From Kleptocracy to the Felonious State," in Jean-François Bayart, Stephen Ellis and Béatrice Hibou, *The Criminalization of the State in Africa*, Bloomington: Indiana University Press, 1-31.
- Collier, Paul et al. (2003) *Breaking the Conflict Trap: Civil War and Development Policy*, Oxford: Oxford University Press. =(2004) 田村勝省(訳)『戦乱下の開発政策』シュプリンガー・フェアラーク東京.
- Crocker, Chester A. (2003) "Engaging Failing States," *Foreign Affairs*, 82(5):32-44.
- The Economist* (2003) "The Global Menace of Local Strife," *The Economist*, 24 May, 23-25.
- Fukuyama, Francis (1992) *The End of History and the Last Man*, New York: Free Press. =(1992) 渡部昇一(訳)『歴史の終わり』(上・中・下)三笠書房、文庫版.
- Gelbard, Robert S. (1998) "Drug Trafficking in Southern Africa," in Robert I. Rotberg and Greg Mills (eds.), *War and Peace in Southern Africa: Crime, Drugs, Armies, and Trade*, Washington, D.C.: Brookings Institution Press, 172-183.
- GIIS (Graduate Institute of International Studies) (2001) *Profiling the Problem: Small Arms Survey 2001*, Oxford: Oxford University Press.
- (2002) *Counting the Human Cost: Small Arms Survey 2002*, Oxford: Oxford University Press.
- (2003) *Development Denied: Small Arms Survey 2003*, Oxford: Oxford University Press.
- Gundel, Joakim (2003) "Assisting Structures of Violence?: Humanitarian Assistance in the Somali Conflict," in Dietrich Jung (ed.), *Shadow Globalization, Ethnic Conflicts and New Wars: A Political Economy of Intra-State War*, London: Routledge, 163-183.
- Herbst, Jeffrey (2004) "Let Them Fail : State Failure in Theory and Practice: Implications for Policy," in Robert I. Rotberg (ed.), *When States Fail: Causes and Consequences*, Princeton: Princeton University Press, 302-318.
- Huntington, Samuel (1993) "The Clash of Civilizations?," *Foreign Affairs*, 72(3):22-49.
- IISS (International Institute of Strategic Studies) (1993) *The Military Balance 1993-1994*, London: International Institute for Strategic Studies.
- (1996) *The Military Balance 1996-1997*, London: International Institute for Strategic Studies.
- (1997) *The Military Balance 1997-1998*, London: International Institute for Strategic Studies.
- (2000) *The Military Balance 2000-2001*, London: International Institute for Strategic Studies.
- (2001) *The Military Balance 2001-2002*, London: International Institute for Strategic Studies.
- (2002) *The Military Balance 2002-2003*, London: International Institute for Strategic Studies.
- Jung, Dietrich (2003) "Introduction: Towards Global Civil War?," in Dietrich Jung (ed.), *Shadow Globalization, Ethnic Conflicts and New Wars: A Political Economy of Intra-State War*, London: Routledge. 1-6.
- Kaldor, Mary (1999→2001) *New and Old Wars: Organized Violence in a Global Era*, with an Afterword, Stanford: Stanford University Press. =(2003) 山本武彦・渡辺正樹(訳)『新戦争論：グローバル時代の組織的暴力』岩波書店.
- 勝俣誠 (2000) 「グローバリゼーションの中のアフリカと国内紛争：構造調整と民主化」『NIRA 政策研究』13(6):12-15.
- (2001a) 「グローバル化のなかのアフリカ問題：『人間の安全保障』の観点から」『国際

- 問題』 499:35-51.
- (201b) 「アフリカにおける人間の安全保障：グローバル化の中の国家と市民」勝俣誠編『グローバル化と人間の安全保障：行動する市民社会』日本経済評論社, 239-256.
- 栗本英世 (2000) 「国家、パトロン・クライアント関係、紛争：現代アフリカ論の試み」『NIRA 政策研究』 13(6):24-27.
- Mallaby, Sebastian (2002) “The Reluctant Imperialist: Terrorism, Failed States, and the Case for American Empire,” *Foreign Affairs*, 81(2):2-7.
- 納家政嗣 (2003) 『国際紛争と予防外交』有斐閣.
- Rotberg, Robert I. (2002) “Failed States in a World of Terror,” *Foreign Affairs*, 81(4):127-140.
- (2004) “The Failure and Collapse of Nation-States : Breakdown, Prevention, and Repair,” in Robert I. Rotberg (ed.), *When States Fail: Causes and Consequences*, Princeton: Princeton University Press, 1-49.
- Singer, Peter W. (2003) *Corporate Warriors: The Rise of the Privatized Military Industry*, Ithaca: Cornell University Press. =(2004) 山崎淳(訳) 『戦争請負会社』日本放送出版協会.
- SIPRI (Stockholm International Peace Research Institute) (1995) *SIPRI Yearbook 1995: Armament, Disarmament and International Security*, Oxford: Oxford University Press.
- (1998) *SIPRI Yearbook 1998: Armament, Disarmament and International Security*, Oxford: Oxford University Press.
- (1999) *SIPRI Yearbook 1999: Armament, Disarmament and International Security*, Oxford: Oxford University Press.
- (2000) *SIPRI Yearbook 2000: Armament, Disarmament and International Security*, Oxford: Oxford University Press.
- (2005) *SIPRI Yearbook 2005: Armament, Disarmament and International Security*, Oxford: Oxford University Press.
- Sterling, Claire (1994) *Thieves' World: The Threat of the New Global Network of Organized Crime*, New York: Simon & Schuster. =(2002) 落合信彦(訳) 『世界を葬る男たち：「21世紀の征服者」国際マフィア連合』光文社、文庫版.
- Venter, C. J. D. (1998) “Drug Abuse and Drug Smuggling in South Africa,” in Robert I. Rotberg and Greg Mills (eds.), *War and Peace in Southern Africa: Crime, Drugs, Armies, and Trade*, Washington, D.C.: Brookings Institution Press, 184-202.
- ウェーバー、マックス(石尾芳久訳) (1992) 『国家社会学：合理的国家と現代の政党および議会の社会学』(改訂版)法律文化社.